

平和・共生 個性・創造 自立・発展

沖縄国際大学

Okinawa International University



「沖縄国際大学米軍ヘリコプター墜落事件10年 問われる沖縄アイデンティティとは何か」写真・パネル展のオープニングセレモニーで歌う・古謝美佐子氏
(関連記事P.3、P.11)

学報 第103号 [2014(平成26)年12月26日発行]

CONTENTS

「普天間基地から沖縄を考える集い」を開催	P2	図書館	P10
沖縄法政研究所連続企画	P3	2014年度 沖縄国際大学総合研究機構活動報告	P11
「沖縄国際大学米軍ヘリコプター墜落事件10年 問われる沖縄アイデンティティとは何か」		2014年度 特待奨学生証書交付	P12
大学コンソーシアム沖縄設立	P3	「おきなわの観光」意見発表コンクールで最優秀賞を受賞	P12
沖縄広告賞2年連続受賞	P4	ガクP沖縄リーグ2014に参加	P12
2014年度 教育実習実施状況報告	P4	空手1プレミアリーグ沖縄大会男子団体形で優勝	P13
2014年度 相談援助実習及び精神保健福祉援助実習報告	P4	ウエイトリフティング部がアジア大会出場および西日本大会優勝	P13
2014年度 うまんちゅ定例講座報告	P5	日台大学軟式野球親善大会日本代表に本学学生が選抜	P13
後援会支部総会を開催	P5	第43回沖縄国大祭／2014年度体育祭	P14-P15
名誉教授称号記授与式を挙行	P5	2014年度 研究費交付決定一覧	P16
2013年度 国外研究員報告	P6	学内人事	P17
教員出版物紹介	P6	訃報	P17
キャリア支援情報	P7-P9	2013年度 事業報告	P17
国際交流センター	P10	2013年度 決算報告	P18-P19
外国語センター	P10	2015年度 入学試験関連情報	P20

「普天間基地から沖縄を考える集い」を開催

8月13日、午後2時より「普天間基地から沖縄を考える集い」を開催しました。

2004年8月13日に起きた米軍ヘリ墜落事件から今年で10年の節目を迎えました。事件を風化させないため、本学では毎年「普天間基地から沖縄を考える集い」を開催しています。

第一部のポケットパーク(ヘリ墜落現場モニュメント)前にて行われた集いには、およそ225名の参加者がありました。集いでは、理事長・学長の大城保より普天間飛行場の撤去・返還を求める旨の声明が発表されました。また、学生を代表して、経済学科3年次の東江やすかずさんと、地域環境政策学科4年次の比嘉麻美さんによる意見発表も行われました。

また、第二部では、数多くのドキュメンタリー賞を受賞している映画「標的の村」(琉球朝日放送制作)が上映されました。90名近い方が観賞し、沖縄の米軍基地問題について深く考える機会となりました。



東江 やすかず



比嘉 麻美



▲「標的の村」上映会の様子

声 明

2014年8月13日

沖縄国際大学への 米軍ヘリコプター墜落後、 10年目を迎えて

2004年8月13日、この場所この時間に、米軍ヘリコプターが墜落炎上して、学生、教職員、市民、県民を恐怖に陥れてから、今日で10年目を迎えます。あの日の墜落現場の惨事と米軍の理不尽な事故処理に対する市民、県民の憤懣やるかたない強い憤りが、時間の経過と共に薄れていくことも残念ながら現実であります。米軍ヘリコプター墜落事件の惨事の記憶を風化させてはなりません。我々は今日、ヘリコプター墜落事件に対する憤りの記憶を改めて鮮明に呼び覚まし、受け継ぐとともに、事件以来求め続けてきた日米合意に基づく普天間飛行場の返還を繰り返し要求し、ここに強い決意を込めて「普天間基地から沖縄を考える集い」を開催し、声明を発表します。

普天間飛行場があり、オスプレイが県内上空を飛行し続ける以上、事故は県内どこかで起こります。日本政府は、総理大臣を始めとして米軍基地負担の軽減を幾度となく約束しています。しかし、普天間飛行場の状況は改善されるどころか、県民の強い反対を受けてもおお、欠陥度が高いと言われるMV-22オスプレイが騒音と低周波を発しながら県内上空を飛び続けています。都市部のど真ん中に位置する普天間飛行場が持つ危険性は、益々増大するばかりで、県民の日本政府と米軍に対する不安と不信は

増幅するばかりであります。

沖縄国際大学は、琉球・沖縄の歴史の中で、人々が求め続けてきた「真の自由と、自治の確立」を建学の精神として、地域に根ざし、世界に開かれた大学を目指して参りました。高等教育の場としての大学は、静かな環境の中で勉学や研究に励む場であります。大学の平穏・安寧を脅かす普天間飛行場の存続、ましてや固定化は、大学にとって認められるものではありません。

安全・安心・平和への思いは、大学人に限らず、思想・信条を超えて万人が求めるところであります。沖縄の安全・安心・平和が脅かされていることは、在日米軍占有施設の74%が全国面積のわずか0.6%の沖縄に集中し、幾度となく米軍関係の事件が起きていることから明らかであり、日本国民の周知の事実であります。普天間基地の撤去・返還は、日米両政府で合意されているところであり、県民誰もが強く期待しているところであります。沖縄の安全・安心・平和、そして平穏・安寧を脅かし、宜野湾市の中心部に位置し、危険この上ない普天間飛行場を即時閉鎖し、撤去・返還することを、ヘリコプター墜落事件から10年目の今日ここに改めて、日米両政府に強く要求します。

理事長・学長

大 城 保



「沖縄国際大学米軍ヘリコプター墜落事件10年 問われる沖縄アイデンティティとは何か」

沖縄法政研究所では、「沖縄大米軍ヘリ墜落」から10年が経つ今年、「問われる沖縄アイデンティティとは何か」をメインテーマに、講演会2回とそれを受けてのシンポジウムを開催しました(共催:沖縄タイムス社、後援:琉球放送株式会社)。

講演会・シンポジウムでは「沖縄アイデンティティ」を切り口に、多面的・重層的に存在する基地問題の現状について意見を交わし、脱基地へ向けた積極的な議論を展開しました。また、関連企画として開催された写真パネル展にも、多くの方々が訪れ、普天間基地に関する資料に目を通していました。演題、講師、パネリスト等は下記のとおり。

現在、この連続企画を基に書籍化が進んでおり、2015年2月に沖縄タイムス社より刊行予定です。



仲里 利信氏



座喜味 彪好氏

連続企画1 講演会(6月21日)
「子や孫たちに明るい沖縄を引き継ぎたい」 座喜味彪好 元沖縄県副知事

連続企画2 講演会(7月21日)
「沖縄の進路」 仲里 利信 前自民党沖縄県連顧問・元沖縄県議会議長

連続企画3 シンポジウム(8月16日)
パネリスト 座喜味彪好 元沖縄県副知事
仲里 利信 前自民党沖縄県連顧問・元沖縄県議会議長
平良 朝敬 かりゆしグループCEO
高嶺 朝一 ジャーナリスト・前琉球新報社代表取締役社長
長元 朝浩 沖縄タイムス社論説委員
コーディネーター 石川 朋子 沖縄法政研究所研究支援助手・特別研究員

写真・パネル展開催期間(8月13日～8月16日)

オープニングセレモニー(8月13日)

長濱 光輝 NPO法人石川・宮森630会会長

宮城 政一 宇宜野湾郷友会会長

仲村 清 宜野湾区自治会長

スペシャルゲスト:古謝美佐子(歌者)

▼シンポジウムの様子



また、関連事業として、7月18日に早稲田大学アジア研究機構と共同シンポジウム「沖縄国際大学米軍ヘリ墜落事件から10年ー普天間基地は今ー」を、早稲田大学小野記念講堂で開催し、照屋寛之所長(法学部教授)と佐藤学所員(法学部教授)をパネリストとして派遣しました。

大学コンソーシアム沖縄設立

9月26日、一般社団法人「大学コンソーシアム沖縄」が設立され、10月24日に、各機関の代表が集まり沖縄科学技術大学院大学にて記者会見が開かれました。

これは、沖縄県内の大学、短期大学等の全11の高等教育機関が連携し、教育や研究などの幅広い分野で充実と発展を図るとともに、産学官連携を通じて地域社会の活性化および沖縄の発展と振興に寄与することを目的としています。

12月23日には「大学コンソーシアム沖縄設立記念シンポジウム2014」が開催され、コンソーシアムの意義と今後の役割について理解を促しました。今後の事業としては、社会人向けの公開講座、学生サミットの実施などが予定されています。

これから本学では、大学相互の結びつきを深め、教育研究のさらなる向上を図り、その成果を地域社会へ還元していきたいと考えております。

沖縄広告賞 2年連続受賞

本学「新石垣空港看板広告」(制作:沖縄広告株式会社)が、第32回沖縄広告協会「広告賞」商業デザイン部門セールスプロモーション第2部門で金賞を受賞しました。

5月20日、沖縄タイムス社タイムスホールで贈賞式が行われ、本学からは常務理事・大城建夫が出席し、表彰状が授与されました。広告賞の受賞は、前回の「本学創立40周年記念広告」新聞一般営業広告部門銀賞に続く二度目の快挙です。

2013年3月の新石垣空港の開港に合わせて、空港2階出発ロビー正面2箇所に看板を設置しました。本学のスクールカラーをモチーフとした看板には、本学の卒業生でミュージシャンの下地勇さんとモンゴル800の上江洌清作さんにご協力いただき、お二人の想いのこもったメッセージを

掲載しています。

2014年4月から同看板を那覇空港にも設置しておりますので、機会があればご覧ください。



2014年度 教育実習実施状況報告

沖縄県教員の資質向上連絡協議会の申し合わせにより、6月実習(主に高校実習)は6月第2週の月曜日から2週間、9月実習(主に中学校実習)は3学期制の場合、9月8日～9月30日、2学期制の場合は夏期休業明けの第1月曜日から15日間という日程で行われました。

詳しい内容は下記のとおりです。また、本学では実習前・中・後に教育実習に関するきめ細かい指導を行っております。

【実習期間】

●6月実習

6月9日～6月20日 正味10日間

●9月実習

①3学期制:9月8日～9月30日 正味15日間

②2学期制:夏期休業明けの第1月曜日から開始 正味15日間

【実習生数】

●実習期間別実習生数

5月実習生:3名 6月実習生:45名 8月実習生:1名 9月実習生:53名
合計:102名

●実習校数

中学校実習生:44校(65名) 高等学校実習生:23校(37名)
合計:67校

●教科別実習生数

英語:26名 公民:13名 国語:33名
社会:16名 商業:4名 地歴:10名

【事前指導】

4月27日:第1回教育実習オリエンテーション

5月9日:第2回教育実習オリエンテーション

7月4日:第3回教育実習オリエンテーション

【事中指導】

2週間実習:第1週目の土曜日に教科教育法教員を交えて実習生による中間懇談会を実施

3週間実習:第2週目の土曜日に教科教育法教員を交えて実習生による中間懇談会を実施

【事後指導】

教育実習終了後、教科教育法毎に教育実習の感想・反省点を報告する教科別反省会を実施

2014年度 相談援助実習及び精神保健福祉援助実習報告

人間福祉学科3・4年次を対象に、社会福祉士国家試験受験資格及び精神保健福祉士国家試験受験資格の取得要件である「相談援助実習」及び「精神保健福祉援助実習」を下記の日程で行いました。

各実習は、福祉従事者として必要な専門知識及び援助技術、関連知識への理解、必要な資質と能力の向上、専門従事者としての倫理観、人格の形成などを目的とし、夏期休み集中型および7月～12月にかけての分散型で行なわれました。

相談援助実習については実習生1名につき1～2ヶ所で180時間以上の実習、精神保健福祉援助実習については、医療機関90時間以上と生活施設90時間の計180時間以上の実習を行います(新カリキュラム対応のため3名は120時間実施)。実習の前後に実習担当教員を中心としたきめ細かい指導を行い、実習中も大学での学内指導や実習担当教員が施設へ巡回し実習生へ指導を行っております。

【実 習】

●相談援助実習

1ヶ所での実習:180時間以上

2ヶ所での実習:60時間以上+120時間以上

●精神保健福祉援助実習

2ヶ所での実習:90時間以上+ 90時間以上
90時間以上+120時間以上(新カリキュラム対応)

【実習期間】

集中型実習:8月5日～9月22日の期間で180時間以上
(精神保健福祉士新カリキュラムは210時間以上)

分散型実習:7月1日～12月26日の期間で180時間以上

【実習施設数及び配属実習生数】

相談援助実習(実人数:57名、延べ人数:64名)

60時間以上+120時間以上:7名

集中型180時間以上:34名、分散型180時間以上:16名

機関数:19ヶ所(病院含む)、施設数:16ヶ所 合計:35ヶ所

精神保健福祉援助実習(実人数:6名、延べ人数:12名)

90時間以上+ 90時間以上:3名

90時間以上+120時間以上:3名

精神科病院:6ヶ所 施設:6ヶ所(診療所含む) 合計:12ヶ所

【実習指導】

●事前指導

オリエンテーションⅠ:2013年11月 5日

オリエンテーションⅡ:2014年 5月13日

オリエンテーションⅢ:ゼミ単位で日時を設定し実習担当教員が指導にあたる

●実習中指導

学内指導日:ゼミ単位で日時を設定し実習担当教員が指導にあたる
巡回指導:実習担当教員が全ての実習施設を巡回し指導にあたる

●事後指導

実習生はそれぞれの実習担当教員から事後指導を受ける

2014年度 うまんちゅ定例講座実施報告

毎年、公開講座委員会主催で行っている「うまんちゅ定例講座」。

今年度は経済学部の教員が中心となり「沖縄を取り巻く経済状況 沖縄に流れている俗説は果たして正しいのか」と題し、5月から11月まで全10回の講座を開催しました。

我々を取り巻く経済状況は急速に成長を遂げたり、バブル崩壊後の長引く不況が続いたり、さらにグローバル化や高齢化への対応などが求められたり、さまざまな問題に直面しています。また、大学においてもこれまでの「教育」、「研究」といった2つの役割に加え、「社会貢献

という新たな重要な責任が求められています。

そこで、沖縄の経済を見つめ直し、実感して頂き、そこから相対的に日本経済、アジア経済、欧米経済、グローバル経済を捉え、沖縄の将来がどのように成長、発展していくのかを知る一助になればと本講座を実施しました。

今年度は、延べ約265人の受講生の皆さまにご参加いただきました。

今回の講座内容は、書籍化され2015年3月に全国の書店で販売予定です。



後援会支部総会を開催

2014年度沖縄国際大学後援会支部総会を開催しました。

支部総会に先立ち教職員の「学生生活・学業及び就職相談会」が行われ、保護者の皆さんが熱心に相談していました。(宮古支部は台風の影響で、12月6日に開催)

支部総会のすべての議案が承認され、新垣實会長から、「新旧役員の皆さんのご労苦に対し感謝し、今後も沖縄国際大学の発展のために、広くご友人やご親戚の方々へ沖縄国際大学のすばらしさを大いに宣伝してください」と挨拶がありました。

大城保学長は「皆様のお子さんは沖縄の将来を背負って立つ人材になります。その人材を育てていくのが大学の役割です。大学も45年、50年と発展してまいりますので、後援会のご協力ご支援、今後ともよろしく願います。」と挨拶しました。

今年度も昨年に引き続き就職講演を行いました。宮古では台風の影響で中止(但し、支部総会は開催されるすべての議案が承認)となりましたが、久米島ではリンク人財センターの喜久村進講師が「就活の『壁』を親子で乗り越えよう!」と題して家族としてどのように関わっていくかを述べ、「就職は子どもだけの問題ではなく家族の問題として考えるべきである」と講演しました。

また、八重山・北部ではキャリアデザイン研究所の松堂美和子講師が「親子で考えるキャリアセミナー」と題して親の役割としてどのように関わっていくか、「就職活動期における子どもの親に対する本音、子どもと進路や就職について話すタイミングが大切」と講演しました。北部支部の講演では、実際に「就活」を実践した二人の学生が講演に加わり、就活本格期に親の温かい支えに感謝していると述べました。

本学におけるキャリア教育の新たな取り組みも紹介されました。

全日程の終了後、高校長・進学担当教諭・校友会支部役員もご出席のもと、保護者の皆さんと有意義な懇親会が行われました。

- ①久米島支部総会《10月 4日出席者15名(会員数 26名)
於:リゾートホテル久米アイランド》
- ②宮古支部総会 《10月11日出席者24名(会員数133名)
於:ホテル共和》
- ③八重山支部総会《10月18日出席者25名(会員数 73名)
於:南の美ら花ホテルミヤヒラ》
- ④北部支部総会 《10月25日出席者21名(会員数286名)
於:ホテルゆがふいんおきなわ》



久米島支部総会出席者



宮古支部総会出席者



八重山支部総会出席者



北部支部総会出席者

名誉教授称号記授与式を挙行

7月11日、本館5階接客室において、3月末日に退職されたカレン・ルパーダス前産業情報学部教授に名誉教授の称号が授与されました。

ルパーダス教授は、短期大学部時代を含めて27年間にわたり本学の教育・研究の分野において多大な貢献をされました。

大城保学長より称号記が授与され、これまでの教育及び学術上の功績に敬意を表すとともに、本学での功労に感謝の言葉を述べました。

これまでに、本学において同称号記を贈られた名誉教授は48名になります。

カレン・ルパーダス名誉教授(中央) ▶



2013年度 国外研究員報告

健康長寿の秘訣:ハワイ日系人の健康寿命に関連する生活習慣の研究

ドナルド・クレイグ・ウィルコックス
Donald Craig Willcox

私は、2013年4月から2014年3月まで1年間、クアヒニメディカルセンター内にあるハワイ大学の医学部老年医学科を中心に研究生活を送った。そこでは、ハワイ日系人約8000人を対象に50年間(1965～)追跡調査を行ったHonolulu Heart Programの研究プロジェクトがある。これらの貴重なデータをもとに、どのような要因が「長寿」や「健康長寿」とかかわっているかの分析を行った。

血圧・肺活量・握力などの身体検査、総コレステロールや血糖などの血液検査、喫煙や飲酒などの生活習慣、さらに教育や職業などの社会的要因についても調べた。その結果として病気や障害なしに中年時(平均54歳)から85歳を迎える確率は、喫煙・多量飲酒・過体重・高血圧などの危険因子が6つ以上のグループでは9%に対して、1つもないグループでは55%(約6倍)と差があった。また後期高齢期(75歳から100歳まで)のどのような要因が「長寿」や「健康長

寿」と関わっているかを分析した。大事なのが1. 身体的要因(BMI指数、ABI(足関節上腕血圧比)、認知、血圧、炎症マーカー)2. 生活習慣(喫煙、飲酒、身体活動量)3. 社会的要因(教育、結婚歴)が関わっていた。

こうした結果から、中年期以降の危険因子を出来るだけ多く回避すれば、健康で長生きできるということは明らかである。さらに、後期高齢者(75歳以上)は、年齢層で見ると今後最も多く増えていく人口層でもある。健康長寿について研究していくことは、今後世界的に高齢化を迎えるにあたり必要不可欠なものになる。

今回、研究活動だけではなく、多くの学会への参加の機会もあったため、この期間を利用し参加させていただいた。アジア(シンガポール)はじめ、アメリカや北欧にて開催された老年学会へ参加してきた。なかでも、世界中で最も大きな老年学会、Gerontological Society of

Americaへの参加により、ハワイで行っていた研究成果の発表を行うことができ、また、そこに集まった数多くの研究者とも意見交換や交流を持つことができた。

終盤には、ハワイ大学にあるEast West Centerにおいて沖縄の長寿の秘訣についての意見交換会(Talk Story)が開催され、そこに沖縄国際大学の代表として参加し、有意義な時間を過ごすことができた。

このような貴重な機会を与えていただいた沖縄国際大学とハワイ大学に心から感謝を申し上げたい。



▶意見交換会(Talk Story)が開催された時の様子

◀ハワイ大学マノア校の様子と所属していた時のIDカード

教員出版物紹介

- | | |
|-------|----------|
| ● 紹介者 | ③ 出版社 |
| ① 著書名 | ④ 発行年月日 |
| ② 著者名 | ⑤ 該当するもの |

●芝田 秀幹(法律学科)

- ①イギリス理想主義の展開と河合栄治郎
－日本イギリス理想主義学会設立10周年記念論集－
- ②行安茂(編)／芝田秀幹、田中浩、
松井慎一郎、山下重一 他(著)
- ③世界思想社
- ④2014年1月30日
- ⑤共著

●渡久地 朝央(地域環境政策学科)

- ①グローバリズムと北海道経済
- ②穴沢眞、江頭進(編)／渡久地朝央 他(著)
- ③ナカニシヤ出版
- ④2014年3月20日
- ⑤共著

●大城 建夫、清村 英之、鶴池 幸雄(企業システム学科)

- ①財務会計の基礎理論と展開(第2版)
- ②大城建夫 他(編著)／清村英之、鶴池幸雄 他(著)
- ③同文館出版
- ④2014年4月25日
- ⑤編著、共著

●葛綿 正一(日本文学学科)

- ①新時代への源氏学2 関係性の政治学 I
- ②葛綿正一 他(著)
- ③竹林舎
- ④2014年5月
- ⑤共著

●石垣 直(社会文化学科)

- ①『台湾原住民研究の射程－接合される過去と現在－』(順益台湾原住民博物館開館20周年記念論文集)
- ②日本順益台湾原住民研究会(編)／
石垣直 他(著)
- ③南天書局(台北)／風響社(東京)
- ④2014年6月9日
- ⑤共著

●江上 幹幸(社会文化学科)

- ①干潟の自然と文化
- ②山下博由・李善愛(編)／江上幹幸 他(著)
- ③東海大学出版部
- ④2014年11月20日
- ⑤共著

①身体と生存の文化生態

- ②池口明子・佐藤廉也(編)／江上幹幸 他(著)
- ③海青社
- ④2014年5月28日
- ⑤共著

●澤田 佳世(社会文化学科)

- ①戦後沖縄の生殖をめぐるポリティクス
－米軍統治下の出生力転換と女たちの交渉－
- ②澤田佳世
- ③大月書店
- ④2014年2月20日
- ⑤単著

①アジアの出産と家族計画－「産む・産まない・産めない身体」をめぐる政治－

- ②小浜正子、松岡悦子(編)／澤田佳世 他(著)
- ③勉誠出版
- ④2014年3月31日
- ⑤共著

●ドナルド・クレイグ・ウィルコックス(人間福祉学科)

- ①沖縄健康の生き方
- ②鈴木信、鈴木陽子、
クレイグ・ウィルコックス、
ブラッドリー・ウィルコックス
- ③新老人の会 沖縄支部
- ④2014年4月8日
- ⑤共著

●三村 和則(人間福祉学科)

- ①沖縄の学力 追跡分析
－学力向上の要因と指導法－
- ②三村和則 他(著)
- ③協同出版
- ④2014年4月10日
- ⑤共著

①教育方法技術論(教師教育講座第9巻)

- ②三村和則 他(著)
- ③協同出版
- ④2014年3月29日
- ⑤共著

●沖縄国際大学経済学科

- ①沖縄経済入門
- ②沖縄国際大学経済学科(編)／
宮城和宏(監修)
- ③編集工房 東洋企画
- ④2014年3月26日
- ⑤編著

●沖縄国際大学公開講座委員会

- ①自治体改革の今
－沖縄の事例を中心にして－
- ②沖縄国際大学公開講座委員会(編)
- ③編集工房 東洋企画
- ④2014年3月31日
- ⑤編著

卒業に必要な単位を 計画的に履修しましょう！！

～就職・採用活動開始時期が変更になります～

2015年度卒業・修了予定者(現在の大学3年生)から就職・採用活動開始時期が変更になります。

詳しくは、下図をご覧ください。(首相官邸HPより抜粋)これに伴い、3年生の3月以降は、就職活動(説明会や会社訪問など)に多くの時間を費やすことになります。また、履歴書やエントリーシートの作成、面接対策は、短い期間で、できるようなものではなく、十分な準備期間が必要です。

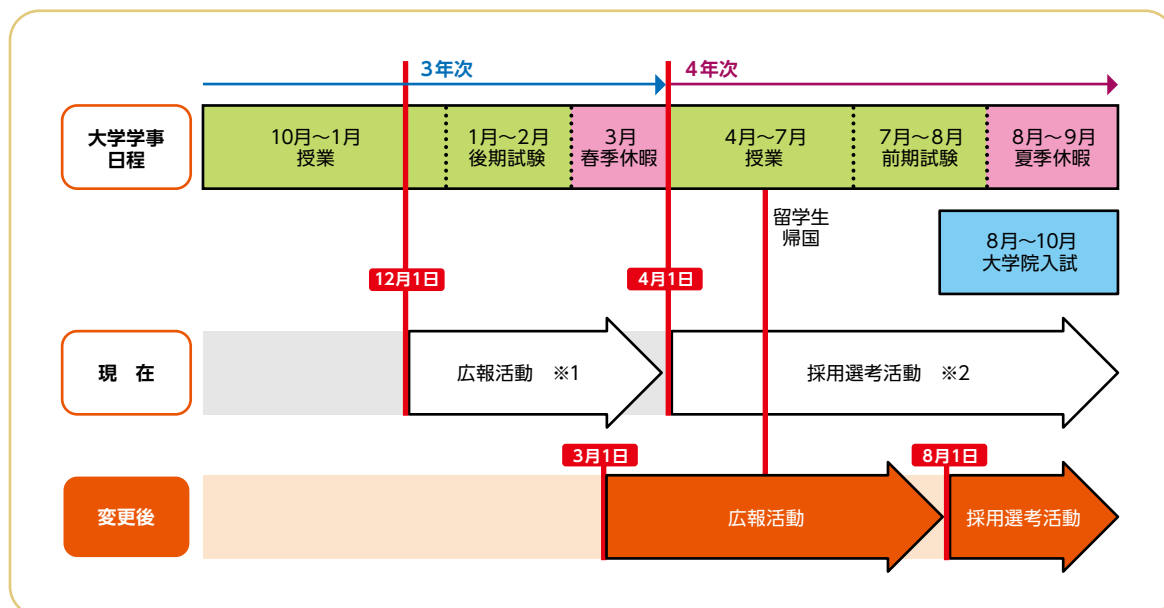
そのため、就職活動をより円滑に進めるためにも、卒業に必要な単位は、必ず計画的に履修してください。学生の本分である学業を疎かにすると、就活にも多大な影響を及ぼします。

卒業単位の計画的な履修は、学業と就職活動を上手く両立させるための必要最低限のポイントであることをお忘れ無く！

就職・採用活動開始時期変更後のスケジュール

(総理要請及び「日本再興戦略」の内容)

2015年度卒業・修了予定者(現在の大学3年生等)から、広報活動は、卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降に開始、その後の採用選考活動は、卒業・修了年度の8月1日以降に開始となります。



※1 広報活動:採用を目的とした情報を学生に対して発信する活動。採用のための実質的な選考とならない活動。

※2 採用選考活動:採用のための実質的な選考を行う活動。採用のために参加が必須となる活動。

2015年度卒業予定者(現3年生)から、就職活動のスタート時期が大きく変わります。

これまでは、企業の採用広報活動の開始は12月1日、選考活動の開始は4月1日でしたが、変更後は、企業の採用広報活動の開始は3月1日から、選考活動の開始は8月1日からへと変更になります。

それに先駆けて、キャリア支援課による就活準備セミナーも、10月3日から始まっています。

就職先を決めることは、卒業後の人生を左右する大切な選択です。早めにコツコツと、取り組むことが、希望の進路への近道となります。

3年生の皆さんが長く厳しい就職活動を乗り切り、希望する企業の内定を手にするために、キャリア支援課では様々な形で就職活動をサポートしています。上手く活用して就職活動を有利に進めてください。

キャリア支援課による就活準備セミナーはじまる

3年生を対象とした就活準備セミナーが、10月3日から本格的に始まりました。

セミナーでは、就職活動のノウハウを学ぶため、連続講座(全5回)として、右記のテーマに沿って開講しました。

本セミナー終了後には、「内定者報告会 ミニ・シンポジウム～なぜ、先輩は内定を取ることができたのか～」(10月24日開催)、「沖国大OB・OG ミニ・シンポジウム～OB・OGが沖国生に伝えたいこと！～」(10月31日開催)を開催しました。

就職活動を成功させ、希望の就職に就くために、セミナーで学んだことを活かしてください。

「就活準備セミナーテーマ」

- 第1回 「就職活動に向けて」～心構えとスケジュール～
- 第2回 キャリアアドバイザーから見た
就活生の就活の現状と課題
～仕事理解と自己分析編～
- 第3回 書く技術を高める！沖国生の自己PRの傾向と対策
- 第4回 話して伝える自己表現とは！
～面接試験の種類とポイント～
- 第5回 就活に必要な『準備力』とは！
～常にアウトプットを意識しよう～

就職相談

就職活動を進めるにあたり、悩んだり戸惑ったりすることが多々あります。そんな時、一人で悩まずキャリア支援課の窓口にご相談にきてください。キャリア支援課を大いに活用して就職活動を乗り切りましょう。

1. キャリアアドバイザーによる就職相談

キャリアアドバイザーによる「就職なんでも相談」を行っています。ここでは、就職に対する意識と行動力を身につけることを主な目的としています。就職や進路に関することなら、学年を問わず、どなたでも利用できます。将来の進路のことや具体的な就職活動の進め方、自己分析の仕方、履歴書やエントリーシートの書き方、模擬面接など、どんなことでも気軽にご相談ください。また、ワークショップ等も開催していますので奮ってご参加ください。なお、キャリアアドバイザーによる相談は予約制となっていますので、以下のとおりお申込みください。

- 相談日:毎週火曜日 14:00～18:00
毎週水曜日 14:00～18:00

- 場所:本館3階会議室

- 予約窓口:キャリア支援課にて随時受け付けています。

2. ハローワーク沖縄による就職相談

ハローワーク沖縄のジョブサポーターによる大学巡回相談を行っています。学年を問わず就職に関する相談を受けていますので、希望される方は以下のとおりご利用ください。

- 相談窓口:毎週月曜日 12:00～16:00

- 場所:本館3階会議室・5号館1Fロビー

- 予約窓口:キャリア支援課にて受け付けています。

3. キャリア支援課スタッフによる就職相談

キャリア支援課スタッフによる履歴書添削、模擬面接を行っています。どちらも予約が必要ですので、希望される方は以下のとおりご利用ください。

(模擬面接および履歴書添削)

- 相談日:月曜日～金曜日(随時)

- 場所:キャリア支援課個別面談室

- 予約窓口:キャリア支援課にて受け付けています。(9:00～19:00)

- 予約時に必要なもの:「履歴書添削」「模擬面接」を予約する場合は、受験する企業に提出する履歴書またはエントリーシートのコピー

※その他、就職に関する相談を学年を問わず随時受け付けています。

県外就職サポート

本学では、県外就職活動時の旅費の一部を補助する「県外就職活動補助金制度」などにより、県外就職を希望する学生を引き続き支援して参ります。

また、本学が加入している私立学校振興・共済事業団の「学生就職活動サポートセンター」が東京と大阪にあり、本学の学生は無料で県外でも就職相談、履歴書添削、模擬面接、セミナー受講などのサポートを受けることができます。

さらに学内でも県外就職に関するイベント等を開催しておりますので、県外就職を希望する学生の皆さんは、サポート制度・施設・イベント等をぜひご活用ください。

インターンシップを実施

本学では、毎年夏季休業中(8月～9月)の2～3週間の日程で、インターンシップを実施しています。今年も県内の企業や公的機関、県や市町村など80企業(機関)208名の学生を受け入れていただき、実習を行いました。

また、県外就職を希望する学生2名が選考され「東京中小企業家同友会・元山和仁記念社長弟子入りツアー」に1週間参加して、東京で活躍する経営者に密着しビジネスの最前線を肌で体験してきました。

インターンシップでは、実際に企業(機関)就業体験を行うことにより、職業意識を向上させる機会に繋がります。具体的な業務を体験することで自分自身を見つめ直し、これからの社会生活でプラスになることを多く学ぶこともできます。ぜひインターンシップ制度を利用して自分の職業適性や可能性を見つけ、就職活動の参考にしてください。



就職内定者コメント

崎山 りん

産業情報学部
企業システム学科 4年次

株琉球銀行
(総合職)
内定

私は沖縄の金融企業である株琉球銀行より内定(総合職)を頂きました。私が就職活動を行っている際に心がけていたことは、他の誰にも譲れない“自分軸”を持つことでした。自分自身を見つめ直し、どれほどアピールできるのかによって、後の採用試験にも大きく関わっていきます。これから就職活動を始める皆さんは、積極的に合同企業説明会などに足を運び企業の方々とお話をすることをおすすめします。また、就活仲間を増やし、お互いに情報交換を行うことも、今後重要なカギとなっていきます。就職活動は決して楽な道のりではありませんでしたが、強い信念を持っていれば不思議と楽しくなっていきます。体調管理にも十分気をつけて、楽しく挑んでください！

講座受講の呼びかけ

キャリア支援課では、各種資格取得・検定試験等の受験対策として有料講座を開設しています。今年度は、23種類の講座を企画し、201名が受講しました。また、各種資格取得・検定試験等には595名が受験し、245名(2014年12月1日現在キャリア支援課把握分)が難関を突破し合格しています。1月以降の開講予定講座は2月・3月の春休みをメインに開講を予定しています。開講講座と検定試験の案内はキャリア支援課掲示板と学内Web掲示板「沖縄大ポータル」で案内していますのでご覧ください。

各講座で学んだことや取得した資格は、社会に出て必要とされるものばかりです。興味を持った講座・検定試験等に挑戦してみませんか。

●2014年度 対策講座及び検定試験等実施状況

2014年12月1日現在 キャリア支援課把握分

No	対策講座名	試験日	講座申込者合計	検定試験等	
				受験者	合格者
1	日商簿記3級対策講座(6月検定向け)	6月 8日	5	右表参照	右表参照
	日商簿記3級対策講座(11月検定向け)	11月16日	3	右表参照	右表参照
2	国内旅行取扱業務取扱管理者講座	9月 7日	8	自己申告	自己申告
3	色彩検定(6月検定向け)対策講座	6月22日	7	右表参照	右表参照
	色彩検定(11月検定向け)対策講座	11月 9日	1	—	—
4	秘書技能検定2級・準1級対策講座(5月開講)	6月22日	3	右表参照	右表参照
	秘書技能検定2級・準1級対策講座(9月開講)	11月 9日	1	右表参照	右表参照
	秘書技能検定準1級対策講座	11月 9日	0	右表参照	右表参照
	話しことば検定2・3級対策講座(7月検定)	—	1	—	—
6	行政書士対策講座	11月 9日	11	※	※
7	宅建対策講座	10月19日	28	※	※
8	ブライダル・プランナー検定2級対策講座(9月検定向け)	9月 7日	1	—	—
	ブライダル・プランナー検定2級対策講座(1月検定向け)	9月 7日	0	—	—
9	日商簿記2級対策講座(11月検定向け)	11月16日	9	右表参照	右表参照
	日商簿記2級対策講座(H27.2月検定向け)	2月22日	2	※	※
10	ITパスポート試験対策講座	10月19日	17	※	※
11	Word文書処理技能検定試験3級(8月試験向け)	8月26日	10	10	10
12	Excel表計算処理技能検定試験3級(9月試験向け)	9月19日	17	17	17
14	ファイリングデザイナー2・3級対策講座	8月14日	4	右表参照	右表参照
15	3級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士受験対策講座	9月14日	8	右表参照	右表参照
16	医療事務講座(7月検定向け)	9月12日	3	自己申告	自己申告
	医療事務コンピュータ講座(7月検定向け)	9月19日	3	自己申告	自己申告
	医療事務講座(12月検定向け)	12月15日	3	—	—
	医療事務コンピュータ講座(12月検定向け)	2月20日	1	—	—
17	介護ヘルパー講座(8月)	9月25日	0	—	—
18	介護事務(8月)	8月21日	2	—	—
19	福祉住環境コーディネーター2級対策講座	—	0	—	—
20	公務員試験(H27.6月向け)対策講座	—	91	—	—
21	社会保険労務士対策講座	8月24日	1	—	—
合計			240	27	27



資格試験受験体験談

登川 裕美

経済学部
地域環境政策学科 3年次

私は旅行が好きで、将来は旅行業界に就職したいと考えています。そのために、就職活動の際に自分の強みとなるものがないかと考え、国内旅行業務取扱管理者試験を受験しました。

この資格を受験するにあたり、今まで馴染みのなかったJR問題や、膨大な量の知識が必要とされる地理問題にとっても苦労しました。そこで、参考書を何度も何度も繰り返し学習し、多くの過去問題や模擬試験を解くことで、知識を身につけることがで

きました。そして、大学側が提供している講座だけではなく、休日や放課後など空いている時間を見つけては資格対策に取り組む、無事に試験に合格することができました。

私はこの資格を取得したことで自信が付き、自分自身も成長できたように感じます。ぜひ、みなさんにも興味を持った資格には積極的に挑戦し、さらに自分を成長させる糧としてほしいと思います。

2014年12月1日現在 キャリア支援課把握分

No	検定試験	試験日	受験者	合格者
1	3級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士 学科	5月25日	32	14
2	3級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士 実技	5月25日	28	11
3	2級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士 学科	5月25日	4	1
4	2級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士 実技	5月25日	2	1
5	第137回 日商簿記検定 2級	6月 8日	20	3
6	第137回 日商簿記検定 3級	6月 8日	80	21
7	秘書検定 準1級	6月22日	0	0
8	秘書検定 2級	6月22日	35	21
9	秘書検定 3級	6月22日	8	4
10	色彩検定 2級	6月22日	8	5
11	色彩検定 3級	6月22日	0	0
12	ビジネス能力検定ジョブパス 2級	6月29日	4	2
13	ビジネス能力検定ジョブパス 3級	6月29日	3	3
14	第74回 販売士検定 3級	7月12日	14	11
15	ファイリングデザイナー検定 2級	8月14日	4	4
16	ファイリングデザイナー検定 3級	8月14日	6	6
17	3級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士 学科	9月14日	83	53
18	3級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士 実技	9月14日	79	26
19	2級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士 学科	9月14日	4	1
20	2級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士 実技	9月14日	0	0
21	第42回 販売士検定 2級	10月 1日	14	5
22	第138回 日商簿記検定 2級	11月16日	40	7
23	第138回 日商簿記検定 3級	11月16日	100	19
合計			568	218

2014年12月1日現在

1月以降開講予定講座紹介	ガイダンス	試験日
Word文書処理技能検定試験3級対策講座	1月 9日	3月12日
Excel表計算処理技能検定試験3級対策講座	1月 9日	3月13日
介護ヘルパー初任者研修	1月 9日	3月23日
介護事務講座	1月 9日	3月 5日
速読講座	1月30日	—
3級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士試験対策講座	1月30日	5月24日
パーソナルカラー講座	1月30日	—
カラーヒーリング講座	1月30日	—

国際交流センター

国際交流センターでは毎年「日本語学・文化研修」として本学国外協定校からの研修生が日本語と日本文化を学ぶ約3週間のプログラムを実施しています。今年の参加学生は韓南大学校(韓国)から5名、東海大学(台湾)から9名の合計14名でした。研修生たちは、平日午前には本学で日本語の授業を受け、午後や週末は学外での文化研修などに参加しました。宿泊先である那覇市内のホテルから毎日バスで大学に通い、ランチにはお弁当を買って食べるなど、沖縄での大学生活を楽しんでいました。このプログラムでは、初日のキャンパスツアーから始まり、各種交流会や文化体験において、国際交流サポーターなどの本学学生によるサポートを実施しています。これらの機会をとおして交流を重ね、フリータイムには学生同士でレジャーやショッピングに出かける光景が見られました。

今年の文化研修は読谷村の一般家庭で沖縄の生活を体験する2泊3日の「民泊」を皮切りに、沖縄県立博物館・美術館見学やおきなわワールドでの工芸体験、本学学生の協力による浴衣の着付け、茶道体験やちゅら水族館見学を含む北部研修などを行いました。また、東村立東小中学校との交流会では、同校児童生徒の皆さんが準備してくれた様々なレクリエーションに参加し、ことばの壁を越えた交流を実現していました。このような体験・交流を通じて、研修生たちは沖縄への理解を深め、サポートしてくれた本学学生との絆を強めていました。

研修期間中に台風の飛来という沖縄ならではの驚きの自然体験もありましたが、最終日の修了式では上達した日本語で一人ずつスピーチを述べ、指導された先生方や参加者を感じさせていました。引き続き行われた歓送会では本学学生たちとの別れを惜しむ姿も見られ、3週間という限られた期間ながら実り多い研修であったことがうかがえました。



実施月	行事名
4月	海外語学・文化セミナー(台湾・オーストラリア)帰国報告会 国外協定校派遣留学(カナダ)募集説明会
5月	国外協定校派遣留学(カナダ)選考試験 海外語学・文化セミナー(韓国・カナダ)募集説明会 国外協定校短期派遣留学(韓国・台湾)募集説明会
6月	国外協定校短期派遣留学(韓国・台湾)選考試験
7月	日本語学・文化研修生(韓国・台湾)受入
8月	国外協定校短期派遣留学生(フランス・米国)派遣 国外協定校派遣留学生(カナダ)派遣
9月	国外協定校短期派遣留学生(澳門)派遣 国外協定校特別聴講学生(フランス・澳門)受入
10月	海外語学・文化セミナー(韓国・カナダ)帰国報告会
11月	海外語学・文化セミナー(台湾・オーストラリア)募集説明会
12月	沖縄地域留学生交流推進協議会主催留学生親善交流会 国外協定校交換留学(フランス・澳門)募集説明会 国外協定校派遣留学(カナダ・米国)募集説明会 外国人留学生懇親会
1月	お花見 国外協定校交換留学(フランス・澳門)選考試験 国外協定校派遣留学(カナダ・米国)選考試験
2月	国外協定校交換留学生(韓国・台湾)派遣
3月	海外語学・文化セミナー生(台湾・オーストラリア)派遣 国外協定校特別聴講学生(韓国・台湾)受入

外国語センター

●第11回 学内英語スピーチコンテスト

7月11日、「学内英語スピーチコンテスト」が開催され、多彩な内容で磨きあげた英語の表現力が競われました。審査の結果、Grand Prizeに我那覇陽子さん(英米言語文化学科4年次)、Second Prizeに吉田麻里子さん(英米言語文化学科4年次)、Third Prizeに金城孝帝さん(地域行政学科3年次)、Honorable Mentionに前川優花さん(英米言語文化学科2年次)、Audience Prizeに仲尾志穂さん(英米言語文化学科3年次)が、入賞しました。入賞者の皆さん、おめでとうございます。そして、応援して下さいった皆さん、ありがとうございます。次回のコンテストでまた会いましょう！



図書館

●高校生によるインターンシップ

7月14日～16日に普天間高等学校2年生4名が図書館でインターンシップを行いました。職員の指導を受けながら、図書の受入から装備、貸出、返却、配架などの一連の業務や、PC・AVコーナーの受付業務などを体験しました。体験した高校生の皆さんから「このインターンシップで体験したことを、自分を成長させるものとして活用し、将来へ役立てたい」「将来の夢を真剣に考える良い機会になった」「1日目・2日目は指示待ちになってしまいがちでしたが、3日目は自分たちで考えて動く作業がほとんどで、不安でしたが「つきっきりじゃなくても大丈夫」と信頼を得ることができたようで嬉しかった」「この3日間で覚えたことを生徒会活動や部活動で活かして将来につなげていきたい」などの感想が寄せられました。



南島文化研究所

●第37回南島文化地域学習／6月28・29日に第37回南島文化地域学習を開催致しました。今回は参加者21人で国頭村を訪問し、比地の聖地や奥間、謝敷集落内を散策し、自然環境や民間信仰、戦後史、奥では製茶工場や共同売店、今年復活した棚田を見学し、地域おこしへの取り組みについて学びました。

●シマ研究会／5月～11月に第188～191回シマ研究会を下記のとおり開催致しました。今年は考古学、老年学、民俗学など多岐にわたりました。

5月26日:宮城弘樹氏「グスク時代・古琉球の貨幣史に関する考古学研究」

6月16日:ドナルド・クレイグ・ウィルコックス所員

「健康長寿の秘訣:ハワイと沖縄の超高齢者からのヒント」

7月14日:栗国恭子氏「近代沖縄と博覧会-近代システムと文化表象-」

10月27日:高江洲敦子氏「沖縄のサングワチャー行事を考える」

●南島研セミナー／今年は第25・26回セミナーを下記のとおり開催致しました。

10月18日:「東アジアの障害学ネットワークに向けて-中国の障害学から学ぶ-」

11月 8日:「地域言語と少数言語-ヨーロッパの言語政策の展望-」

●大東諸島・韓国調査／8月下旬に南北大東島・9月上旬には韓国調査を行い、所員・特別研究員が調査に参加しました。

●第36回南島文化市民講座／11月29日に「植物からみたシマの原風景-フクギに守られる村落」をテーマに地理学・風水・造園・歴史学の各分野から村落景観の形成について議論しました。

●学術交流／当研究所と協定を結んでいる韓国全南大学校湖南学研究院の協定研究所国際学術大会(12月5日開催)に参加・発表しました。



沖縄法政研究所

沖縄法政研究所では、2014年度に研究会を3回、講演会を2回、シンポジウムを1回、開催しました。第50回研究会は熊谷久世所員と鎌田晋特別研究員が「ハーグ条約批准後における沖縄の課題」(5月30日開催)、第51回は松井慎一郎特別研究員が「近代日本における『功利』と『道義』-リベラリストの言説を中心に-」、第52回研究会はClaus Franke本学非常勤教員が「第一次世界大戦から100年の節目にあたって-若き芸術家たちは何を残したのか-」(11月5日開催)をテーマに研究報告を行いました。

1月には情報セキュリティ大学院大学学長補佐の湯浅壘道情報セキュリティ研究科教授が研究報告を行う予定です。

本学米軍ヘリコプター墜落から10年となる今年は、「問われる沖縄アイデンティティとは何か」をメインテーマに講演会2回と、それを受けてのシンポジウムを連続企画として開催しました。また、連動して写真パネル展を開催しました。今年は、昨年同様、普天間基地建設以前の地域のあり様、基地建設過程、米軍ヘリコプターCH-53D墜落や石川・宮森ジェット機墜落等の米軍機墜落等に加え、米軍基地返還跡地利用状況、辺野古基地関連の写真パネルも展示しました。

(関連記事は3ページ)



沖縄経済環境研究所

●プロジェクト研究

- フレキシビリティに関する研究
- 奄美群島における観光と環境の総合調査研究
- 沖縄経済の構造と今後の展望に関する総合調査研究

●刊行物

- SB(ソーシャルビジネス)研究会報告書第6号
- 沖縄経済環境研究所紀要『経済環境研究』第5号
- 『経済環境研究調査報告書』
- 2014(平成26)年度沖縄経済環境研究所パンフレット

●研究会・フォーラム、講座等

- 4月7日～7月21日『民学連携講座 琉球泡盛学』講座Ⅰ
毎週月曜日18:30～20:00
- 7月12日
沖縄経済環境研究所フォーラム
「大学の社会的責任を問う-学生イニシアティブとシビックエンゲージメント」
浦添市教育委員会てだこ市民大学との共催
- 9月29日～2015年1月26日『民学連携講座 琉球泡盛学』講座Ⅱ
毎週月曜日18:30～20:00
- 4月19日～2015年3月14日
ソーシャルビジネス研究会in産学連携講座
第3土曜日開催



産業総合研究所

前期は研究会を4回、地域連携事業の一環として「学生ビジネスプランコンテスト」の関連セミナーを開催しました。

●研究会

- 6月13日:『広告マーケティングのチカラ』
講師:上江洲安広(株)アドスタッフ博報堂専務執行役員
企業のコミュニケーション活動を手がける専門家(広告会社)をお招きし、広告開発のプロセスを中心に講演して頂きました。
- 8月5日:『消費者行動研究-対人関係とギフトの視点-』
講師:石垣智徳(南山大学大学院教授)
ギフト行為を消費活動と消費者相互のコミュニケーション活動から捉えた「ギフトの消費連鎖モデル(RISASS)」について講演して頂きました。
- 8月27日:『コンテンツを用いた観光土産の商品開発-熊本県観光土産事業者への調査報告-』
講師:辻本法子(桃山学院大学経営学部教授)
熊本県で行った観光土産品に関する調査報告をして頂きました。
- 8月29日:『ECサイトの閲覧・購買行動のモデル分析』
講師:中山雄司(大阪府立大学経済学研究科教授)
利用者のECサイト閲覧・購買行動に関する近年の研究アプローチについて講演して頂きました。

●地域連携事業

- 2015うちな～ICTビジネスプラン発表会の関連セミナー
主催:総務省沖縄総合通信事務所
10月14日:キックオフセミナー
10月25日:スキルアップセミナー
- 第7回沖縄学生ビジネスプランコンテストの関連セミナー
主催:琉球大学産学官連携推進機構
8月16日:起業セミナー1:『ビジネスアイデアの出し方』
9月 7日:起業セミナー2:『事業計画の立て方』



2014年度特待奨学生証書交付

10月3日、各学部教授会において、2014年度の特待奨学生交付式が行われました。

本学奨学生は「学業・人物ともに優秀で、他の模範となる学生」という基準で選考され、今回、交付対象となった30名（法学部6名、経済学部6名、産業情報学部6名、総合文化学部12名）には、授業料・施設設備資金に相当する額の奨学金810,000円が給付されます。

今回の対象者の中には3年連続で選出された学生もあり、交付式では各学部長からその優秀な成績と真面目な勤勉ぶりに対する賛辞が述べられました。

英米言語文化学科4年次の中村ユリカさん（那覇西高校出身）からは「3年連続の特待奨学生の採用ありがとうございます。1年生からコツコツと積み重ねてきたモノがこのような素晴らしい形で評価され、とても光栄に思います。最高の親孝行になりました。残り少ない学校生活ですが、特待奨学生としての自覚を持ち、何事にも

積極的に取り組んでいきたいと思います。」とコメントをいただきました。



法学部



経済学部



総合文化学部



産業情報学部

「おきなわの観光」意見発表コンクールで最優秀賞を受賞

7月12日に沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハで行われました第11回「おきなわの観光」意見発表コンクール（主催：かりゆしグループ）において、本学学生の嘉数夕海さん（企業システム学科2年次）が最優秀賞、知花真希さん（地域環境政策学科3年次）が優良賞を受賞しました。また学校特別賞を本学が受賞しました。

最優秀賞を受賞した嘉数夕海さんは「いこうよ、島コン!」をテーマに、婚活を観光に活かすという独創的な視点でプランニングした観光コンテンツについて発表しました。ユーモアを交えた内容に、会場からは笑いが起きるなど和やかな雰囲気でした。

優良賞を受賞した知花真希さんは「学生主体の沖縄PR」と題して、学生自らが主体となって観光情報を発信

していく方策についてプレゼンテーションしました。

学校特別賞は本学を代表して、山入端津由 学生部長が賞状を受け取りました。



ガクP沖縄リーグ2014に参加 ～『旨辛でいーだパン』を販売～

ガクP沖縄リーグ2014に、本学企業システム学科宮森ゼミの学生8名が参加しました。

ガクP沖縄リーグは、株式会社沖縄ファミリーマートが県内に在籍する大学生を対象にした実践型インターンシップで、商品開発から販売まで行う体験型プログラムです。

今年の担当商品は「パン」で、「太陽（ていーだ）パン」を食べて、太陽のようにHOTに元気になってほしい」がコンセプトの『旨辛でいーだパン』を販売しました。

今回、1位を獲得することはできませんでしたが、メッセージ性の高さやCMの内容が評価され、ベストパフォーマンス賞を受賞しました。次回、開催の際にも応援宜しくお願いします。



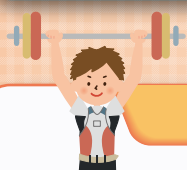


空手1プレミアリーグ沖縄大会男子団体形で優勝

8月30日～31日、世界各地から空手家が集い技を競う「空手1プレミアリーグ」が沖縄で開催されました。

本学空手道部の社会文化学科4年次・上村拓也君（興南高校出身）が、本学卒業生の喜友名諒さん（沖縄劉衛流空手・古武道龍鳳会）と、同じく本学卒業生の金城新さん（沖縄劉衛流空手・古武道龍鳳会）とともに出場した男子団体形で優勝しました。

3人は2012年のトルコ大会、2013年のドイツ大会に続いて3度目の優勝を果たしました。また、喜友名さんは、男子個人形でも優勝し2冠を達成しました。男子団体形と同じく、トルコ大会、ドイツ大会に続く3度目の優勝となりました。



ウエイトリフティング部がアジア大会出場および西日本大会優勝

韓国・仁川で行われたアジア競技大会2014において、知念光亮君（経済学部経済学科1年次/豊見城高校出身）が105キロ超級で出場し、11位という結果を残しました。ジュニアの年齢でありながら、更にレベルが高いシニア競技大会への出場、そして、アジア大会という大舞台で健闘しました。

また、大阪府・吹田市で行われた2014西日本学生交流個人選手権大会（第54回西日本学生選手権大会代替競技会）において、94キロ級で屋良一郎君（総合文化学部社会文化学科1年次/南部工業高校出身）が、85キロ級で仲西弘一君（経済学部経済学科1年次/豊見城高校出身）が優勝しました。創設一年目での快挙となりました。



日台大学軟式野球親善大会日本代表に本学学生が選抜

第9回日台大学軟式野球国際親善大会の日本代表メンバーに、地域環境政策学科4年の多宇雄飛君（八重山農林高校出身）と経済学科3年の許田将平君（名護高校出身）が選出されました。

この大会は、軟式野球の海外普及を目的として開催されており、今年で9回目の開催となります。7月に千葉県で行われた全日本大学軟式野球連盟（主催）によるセレクションで、参加者72人の中から日本代表に選ばれました。また、多宇君は2年連続の代表選出となります。

二人は12月5日から行われる親善試合に出場し、台湾の大学野球チームや元プロ野球選手を交えた社会人チームと対戦しました。3日間の大会成績は通算4勝2分け0敗となり、多宇君、許田君ともに

代表メンバーとして活躍しました。



沖国大祭2014 Carpe Diem

～今を楽しめ～

11月22日・23日の両日、第43回沖国大祭が開催されました。

今年は『Carpe Diem』（ラテン語で「今を楽しめ」を意味する）をテーマに、沖国大生一人ひとりの個性が光る企画を催しました。

今回も多くの皆さまのご協力により沖国大祭を終了しましたことを、心より御礼申し上げます。



第43回沖縄国際大学祭のお礼とお詫び

去る11月22日、23日に行われました「第43回沖縄国際大学祭」に多数の皆様にご参加を頂きましてありがとうございました。

また、沖国大祭を開催するにあたり地域住民の方々・関係者の皆様には、いろいろご協力いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

しかしながら、沖国大祭において大学周辺の混雑や騒音が生じたことに関しましては、大学近隣にお住まいの方々に多大なご迷惑をおかけしました事を深くお詫び申し上げます。

今回、沖国大祭の実施に関しましてご指摘頂いた点につきましては、次年度以降の計画に取り入れ、反省の気持ちをもって改善に

努めて参る所存でございますので、引き続き温かいご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

最後に、大学祭の実施につきましては、課外活動の成果発表、地域住民および大学生相互の親睦を心がけておりますので、地域住民の方々・関係者の皆様には、今後とも何卒ご理解・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2014年11月25日

沖縄国際大学
大学祭実行委員会

委員長 照喜名 葉月



2014年度 体育祭

5月21日、2014年度体育祭を開催しました。
当日は梅雨時期にもかかわらず、素晴らしい晴天に恵まれました。昨年度に引き続き、今年度も大学実行委員が運営し、グラウンドにてフットサル、体育館にてバレーボールを実施しました。

各チームとも団結し、最後まで白熱した試合を展開。体育祭は大いに盛り上がり、学生や教職員の親交を深める1日となりました。





★科学研究費助成事業(研究代表者)

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1	基盤研究A	総合文化学部	教授	狩俣 恵一	琉球言語資料のデジタル化とその活用方法の研究	9,000,000
2	基盤研究B	総合文化学部	教授	鳥山 淳	戦後沖縄の平和運動に関する個人資料群の公開・活用モデルの構築と実証的研究	3,000,000
3	基盤研究C	経済学部	准教授	根路銘もえ子	屋外環境においてロバストなマーカレス重畳表示を用いた観光案内システムの開発	1,000,000
4	基盤研究C	産業情報学部	教授	原田 優也	私的空間におけるアジア消費者間コンテンツ・シェアリング行動とメカニズムの比較研究	1,300,000
5	基盤研究C	産業情報学部	准教授	木村 眞実	自動車静脈系サプライチェーンにおける MFCA の適用に関する研究	500,000
6	基盤研究C	産業情報学部	准教授	田口 順等	現代クルーズ客船誘致による地域経済への影響と観光政策評価	900,000
7	基盤研究C	総合文化学部	教授	西岡 敏	琉球民謡語彙のデータベース化	600,000
8	基盤研究C	総合文化学部	准教授	田場 裕規	<見ること>と<読むこと>をつなぐ「デジタル教材」に関する研究	2,800,000
9	挑戦の萌芽	総合文化学部	教授	小柳 正弘	障害児支援における「現場の理念」の探索・構築－現場と倫理学の循環的交流	600,000
10	若手研究B	法学部	講師	西山 千絵	公教育上における生徒の宗教的自由への配慮に関する比較憲法的考察	500,000
11	若手研究B	法学部	講師	野添 文彬	施政権返還後の沖縄米軍基地と日米沖縄関係－1970年代を中心に	700,000
12	若手研究B	経済学部	講師	金城 敬太	事例ベース意志決定の拡張による消費者モデリングとその応用	500,000
13	若手研究B	総合文化学部	教授	澤田 佳世	沖縄の国際結婚とジェンダー再配置――越境する家族と移住女性の主体形成・権利保障	1,370,000
14	若手研究B	地域文化研究科	学振特別研究員	山田 浩世	近世琉球の流動的身分に関する基礎的研究	1,700,000
15	特別研究員奨励費	地域文化研究科	学振特別研究員	山田 浩世	近世琉球における官人制度の構造的な研究	800,000

★科学研究費助成事業(研究分担者)

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	研究代表者
1	基盤研究S	総合文化学部	講師	里 麻奈美	OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究	東北大学 小泉政利
2	基盤研究A	経済学部	准教授	浦本 寛史	琉球言語資料のデジタル化とその活用方法の研究	沖縄国際大学 狩俣恵一
3	基盤研究A	総合文化学部	教授	西岡 敏	琉球言語資料のデジタル化とその活用方法の研究	沖縄国際大学 狩俣恵一
4	基盤研究A	総合文化学部	教授	西岡 敏	消滅危機言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究	琉球大学 狩俣繁久
5	基盤研究A	総合文化学部	准教授	田場 裕規	琉球言語資料のデジタル化とその活用方法の研究	沖縄国際大学 狩俣恵一
6	基盤研究B	総合文化学部	准教授	西原 幹子	デジタルアーカイブズと英国初期近代演劇研究－劇場、役者、印刷所を繋ぐネットワーク	筑波大学 加藤行夫
7	基盤研究B	総合文化学部	准教授	比嘉 昌哉	スクールソーシャルワーカーの専門性向上のためのスーパービジョン・プログラムの開発	久留米大学 門田光司
8	基盤研究B	法学部	教授	佐藤 学	公共サービス供給編制の多様性と自治のダイナミクスに関する研究	山梨学院大学 今村都南雄
9	基盤研究B	法学部	准教授	上江洲 純子	諸外国倒産手続きにおける担保目的物の評価手法に関する比較検証	大阪大学 藤本利一
10	基盤研究B	総合文化学部	教授	吉浜 忍	戦後沖縄の平和運動に関する個人資料群の公開・活用モデルの構築と実証的研究	沖縄国際大学 鳥山淳
11	基盤研究B	総合文化学部	准教授	藤波 潔	戦後沖縄の平和運動に関する個人資料群の公開・活用モデルの構築と実証的研究	沖縄国際大学 鳥山淳
12	基盤研究C	経済学部	講師	金城 敬太	ルールアップダクションとアナロジーによるスキル創造支援	嘉悦大学 古川康一
13	基盤研究C	産業情報学部	准教授	木村 眞実	自動車リサイクル産業の国際展開に関する日韓比較研究	熊本大学 外川健一
14	基盤研究C	総合文化学部	准教授	桃原 一彦	現代日本と沖縄をめぐる社会意識の動態に関する探索的研究	大妻女子大学 池田緑
15	基盤研究C	総合文化学部	准教授	崎浜 靖	<見ること>と<読むこと>をつなぐ「デジタル教材」に関する研究	沖縄国際大学 田場裕規

★厚生労働省科学研究費補助金(研究分担者)

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	研究代表者
1	労働安全衛生総合研究事業	法学部	教授	井村 真己	リスクアセスメントを核とした諸外国の労働安全衛生制度の背景・特徴・効果とわが国への適応可能性に関する調査研究	近畿大学 三柴丈典

★公益信託宇流麻学術研究助成基金

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1	人文・社会科学	産業情報学部	教授	仲地 健	特産品の開発と地方自治体の役割	225,000
2	人文・社会科学	総合文化学部	教授	江上 幹幸	海岸地形からみた琉球列島の製塩形態の特性、その復元と活用におけるアプローチ	225,000



新任教員コメント

①最終学歴 ②主な担当科目

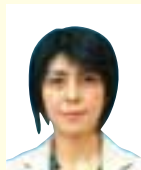


教育職員

経済学科
准教授

比嘉 正茂

(ひが まさしげ)



教育職員

日本文化学科
講師

桃原 千英子

(とうばる ちえこ)

- ① 明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程修了 博士(経済学)
② 公共経済学、ミクロ経済学ほか

学部・大学院を過ごした母校、冲国大の教壇に立てることを大変嬉しく思います。冲国大の学生と「ともに考え、学べること」を楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

- ① 上越教育大学大学院 学校教育研究科 学校教育専攻 学習臨床コース 学習過程臨床分野 修了(教育学 修士)
② 国語科教育法、国語科教育法演習、日本文学特殊講義、リテラシー入門

このたび、国語科教育を担当することになりました。文学の読みや学習場面の分析方法など、学生の皆さんと共にこれからの国語教育について考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

[採用：教育職員：9月23日付]

役職名	氏名
経済学部 経済学科 准教授	比嘉 正茂
総合文化学部 日本文化学科 講師	桃原 千英子

[昇任：教育職員：10月1日付]

新職名	氏名	旧職名
産業情報学部 准教授	小渡 悟	産業情報学部 講師

[昇任：事務職員：7月1日付]

新職名	氏名	旧職名
教務部 教務事務部長	上原 靖	総務部総務課 課長
国際交流センター課長	金城 多恵子	図書館図書課 課長補佐

[配置換：事務職員：7月1日付]

新職名	氏名	旧職名
総務部 総務部長	普久原 朝 保	センター統括事務部長
センター統括事務部長	仲宗根 仁 史	教務部教務事務部長
総務部総務課 課長	山 里 洋	国際交流センター 課長
総務部総務課 係長	安谷屋 美 紀	教務部学務課 係長
教務部学務課 課長補佐	玉代勢 尚 茂	学生部学生課 課長補佐
教務部学務課 係長	比 嘉 綾 子	学生部キャリア支援課 係長
図書館図書課 主任	島 袋 彰	情報センター 主任
学生部キャリア支援課 主任	山 城 圭	総務部総務課 主任
学生部学生課 主任	山 下 紋 子	総務部会計課 主任
教務部学務課 主任	安次嶺 ゆり香	図書館図書課 主任
総務部広報企画課 係員	山入端 太 一	入試センター 係員
総務部総務課 係員	高 吉 いくみ	総務部広報企画課 係員
情報センター 係員	比 嘉 優 太	教務部学務課 係員
入試センター 係員	大 城 沙 織	教務部学務課 係員
図書館図書課 副参事	垣 花 聡	経営政策室 副参事

訃報



高宮城 繁

(たかみやぎ しげる)

10月17日、ご逝去。79歳。

沖縄県北谷町出身。
1968年4月国際大学講師に採用。
1972年4月沖縄国際大学に採用。
1983年10月教授昇任。
2004年3月退職、2004年4月名誉教授。
2008年～2011年
沖縄伝統空手道振興会理事長。
2011年県文化功労者表彰を受章。

2013年度事業報告(抜粋)

私立学校法第47条第2項に基づき、2013年度の本学事業内容を開示いたします。本学は今後も「地域の私立大学として」、建学の理念・目的、教育目標を前提に、自主的・主体的に教育水準の改善向上を図り、健全な経営に向けて継続的に取り組んで参ります。(紙面の都合から抜粋といたしました。全文は、大学Webページで公開しておりますので、そちらもご覧いただければ幸いに存じます。

1. 教育・学修に関する事業

- (1) 学部教育(学部学科)
- (2) 教職課程の強化
- (3) 大学院教育
- (4) 組織的FDの推進
- (5) 教育支援者(SA・TA)制度の活用促進
- (6) 産学官連携教育
- (7) インターンシップ教育
- (8) 教員免許状更新講習の実施

2. 学生支援に関する事業

- (1) 学生生活支援に関する事業
- (2) 学生活動に関する事業

3. 入学・キャリア支援に関する事業

- (1) 学生募集・入学者支援に関する事業
- (2) キャリア教育・就職活動支援事業

4. 研究支援に関する事業

- (1) 個人研究及び共同研究を促進する。
- (2) 科研費による研究事業を促進する。
- (3) 研究所事業(総合研究機構所蔵図書登録・管理運用)
- (4) 産学官連携研究事業を促進する。
- (5) 受託研究事業を促進する。
- (6) その他研究支援事業を促進する。

5. 国際交流・連携及び特別語学教育の強化に関する事業

- (1) 国際交流連携強化事業
- (2) 国際交流・連携に関する事業
- (3) 特別語学教育強化に関する事業

6. 地域貢献・連携に関する事業

- (1) 公開講座の強化・社会人生涯学習の強化事業については、検討するに至っていない。
- (2) セミナーハウス活用の活性化事業について検討する。
- (3) 後援会との連携強化事業について検討する。
- (4) 校友会との連携強化事業について検討する。
- (5) 宜野湾市や地域との連携強化事業について検討する。
- (6) 産業界や各種団体との連携強化事業について検討する。
- (7) その他地域貢献・連携に係る事業について検討するため、文部科学省のCOC補助事業を申請した。

7. 図書館・情報メディア環境に関する事業

- (1) 図書館利用の活性化と図書館サービスの拡充
- (2) 情報メディア環境の整備強化事業

2013年度 決算報告

❁ 財政の概要

大学の使命は、人材育成を通じて社会に貢献することである。本学がその使命を長期的・安定的・持続的に果たしていくためには、確固たる財政基盤の確立が不可欠となる。

文部科学省は、メリハリのある私学助成を進めていくとしており、国庫補助金の増額は期待される状況にはなく、少子高齢社会、高度情報社会、グローバル社会等と言われる中、大学全入時代に入り、二極化が進み、40%の私立大学が定員割れを起こす等、私立大学を取り巻く経済環境は、依然として厳しい状況が続いていくものと考えられる。

本学の収支状況、経営状況については、現在特に大きな問題は無いが、今後の学生生徒等納付金収入の増加は見通しが全く立たず、一定を維持することが精一杯であろう。

しかし、そのような中でも、経済状態の厳しい学生を支援し、学業が続けられる環境を整備すると共に、就職の機会を多く与えられる環境作りに取り組むことや、非常勤教員への依存、校舎老朽化及び構内環境整備の遅れなどにも対応しつつ、常に教育・研究の質的充実を図るためには財政的基盤を更に強固なものにしていくことも考えていかなくてはならない。

本学では、これまで財政運営については、「中長期財政計画」に基づいており、2011(平成23)年度には、「第2次中長期経営計画」(2012年4月1日～2017年3月31日)を策定している。

本学の財政状況については、楽観的な想定を許す社会経済的要因がないことから、業務内容の変更や新たな企画に際しては、必要

性や実行可能性についても明確にすると共に、経費見積りに当たっては、単なる慣例的な予算付けは極力除外していく。

財政運営は、計画に沿った以下を基本方針としている。

- (1) 収支均衡の財政運営を図る。
- (2) 借入金に依存しない財政運営を図る。
- (3) 自己資金で調達できる限度内での施設設備の投資を行う。

2013(平成25)年度の決算は中長期経営計画・事業計画及び予算編成の基本に基づいた財務状況をあらわしたものとなる。経年的経費、継続事業、新規事業等に対する実効性の高い予算配分を行うとともに過去の実績を踏まえて経費削減を行い、財政基盤の健全性の維持に努めた。その結果、削減を要する経費(消耗品費、光熱水費等)については一定の削減成果を得た。

しかし、教育活動目的、学生生活目的及び情報化に係る教育充実など質的向上を図る上で、有効にすべき経費(研究助成費、学生補助金、業務委託費等)において未執行が発生した。

以下に、2013(平成25)年度の財務状況(資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表)及び直近6カ年間の消費収支決算財務比率、貸借対照表決算財務比率の推移を掲げる。

なお、この計算書は学校法人会計基準(1971年4月1日文部省省令18号)に従い作成しており、様式は補助金交付基準に基づく表示区分になっている。

❁ 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の収入及び教育研究並びにその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにした。

資金収支計算書(自2013年4月1日至2014年3月31日)(単位:円)

科 目	予 算	決 算	差 額	
学生生徒等納付金収入	4,695,358,000	4,661,854,300	33,503,700	①
手数料収入	83,337,000	91,142,380	△7,805,380	②
寄付金収入	49,480,000	50,323,000	△843,000	③
補助金収入	348,157,000	234,025,485	114,131,515	④
資産運用収入	66,472,000	63,733,130	2,738,870	⑤
事業収入	12,029,000	11,175,470	853,530	⑥
雑収入	180,672,000	173,881,171	6,790,829	⑦
前受金収入	2,024,653,000	1,931,983,746	92,669,254	⑧
その他の収入	1,257,870,483	1,296,922,143	△39,051,660	
資金収入調整勘定	△2,100,797,700	△2,103,532,855	2,735,155	
前年度繰越支払資金	11,691,061,945	11,691,061,945		
収入の部合計	18,308,292,728	18,102,569,915	205,722,813	

科 目	予 算	決 算	差 額	
人件費支出	2,886,997,036	2,829,166,730	57,830,306	⑨
教育研究経費支出	1,247,427,000	1,108,094,378	139,332,622	⑩
管理経費支出	224,240,000	189,148,303	35,091,697	⑪
借入金等利息支出	8,500,000	8,500,000	0	
借入金等返済支出	100,000,000	100,000,000	0	
施設関係支出	46,146,000	17,155,090	28,990,910	⑫
設備関係支出	208,397,000	156,771,310	51,625,690	⑬
資産運用支出	930,189,000	751,955,406	178,233,594	
その他の支出	1,412,287,150	1,429,449,105	△17,161,955	
[予備費]	5,945,036			
	34,054,964		34,054,964	⑭
資金支出調整勘定	△294,379,000	△346,281,789	51,902,789	
次年度繰越支払資金	11,504,433,578	11,858,611,382	△354,177,804	
支出の部合計	18,308,292,728	18,102,569,915	205,722,813	

【資金収支決算概要】

- ① 学生生徒等納付金収入のうち、授業料収入及び施設設備資金収入は、前期納入実績に基づき予算補正を行ったが、結果として収入減となった。
- ② 手数料収入のうち入学検定料は、志願者増により収入増となった。
- ③ 寄付金収入のうち特別寄付金収入は、学生サポート奨学金への寄付増により収入増となった。
- ④ 補助金収入のうち経常費補助金収入では、一般補助・特別補助の枠組みの変更等により減額となった。
- ⑤ 資産運用収入は、有価証券等の資産運用と金利が下落したため収入減となった。
- ⑥ 事業収入は、受託事業収入等の減により収入減となった。
- ⑦ 雑収入は、損害保険料給付がなかったため収入減となった。
- ⑧ 前受金収入は、経済的理由による学費未納者の増加により減額となった。
- ⑨ 人件費支出は、専任教員、非常勤教員、専任職員及び非常勤職員給与費等における予測誤差による差異となった。
- ⑩ 教育研究経費支出は、節減効果(消耗品費、光熱水費、旅費交通費等)と教育の質的向上を図るための有効に執行すべき経費(研究助成費、学生補助金、業務委託費等未執行)による差異となった。
- ⑪ 管理経費支出は、節減効果及び未執行による差異となった。
- ⑫ 施設関係支出は、建設仮勘定の未執行による差異となった。
- ⑬ 設備関係支出は、情報センター関連備品の執行残や図書費の未執行による残額。
- ⑭ 予備費支出は、定年によらない職員退職金支出による。

消費収支計算書(自2013年4月1日至2014年3月31日)(単位:円)

科 目	予 算	決 算	差 額
学生生徒等納付金	4,695,358,000	4,661,854,300	33,503,700
手 数 料	83,337,000	91,142,380	△7,805,380
寄 付 金	51,880,000	53,332,479	△1,452,479
補 助 金	348,157,000	234,025,485	114,131,515
資 産 運 用 収 入	66,472,000	63,733,130	2,738,870
事 業 収 入	12,029,000	11,175,470	853,530
雑 収 入	180,672,000	173,881,171	6,790,829
帰 属 収 入 合 計	5,437,905,000	5,289,144,415	148,760,585 ①
基本金組入額合計	△414,543,000	△331,259,335	△83,283,665 ②
消費収入の部合計	5,023,362,000	4,957,885,080	65,476,920 ③

【消費収支決算概要】

- ① 帰属収入合計は、補助金の減額と補正予算編成時に、学生生徒等納付金等の算定根拠となる学生数の増加を見込んだ調整を行ったため、結果として収入減となった。ただし、手数料の検定料収入については、志願者増により増収となった。
- ② 基本金組入額は、土地、施設設備、機器備品、図書、借入金返済に係る組入れ等、第1号基本金と沖縄国際大学文化活動奨励基金他2件の第3号

科 目	予 算	決 算	差 額
人 件 費	2,845,320,036	2,780,558,038	64,761,998
教 育 研 究 経 費	1,770,828,000	1,534,712,521	236,115,479
管 理 経 費	261,448,000	222,289,141	39,158,859
借 入 金 等 利 息	8,500,000	8,500,000	0
資 産 処 分 差 額	12,176,000	7,975,073	4,200,927
[予 備 費]	5,945,036		
	34,054,964		34,054,964
消費支出の部合計	4,932,327,000	4,554,034,773	378,292,227 ③
当年度消費収入超過額	91,035,000	403,850,307	
前年度繰越消費収入超過額	4,873,495,131	4,873,495,131	
翌年度繰越消費収入超過額	4,964,530,131	5,277,345,438	

- 基本金組入れを行った。
- ③ 消費収入の部は、帰属収入の手数料収入、寄付金収入、を除いて減額となり、消費支出の部において、消耗品支出、光熱水費支出、旅費交通費、の節減と研究活動、学生活動、業務委託費支出の一部未執行が発生したため、当年度消費収入超過額が予算を上回る結果となり、翌年度繰越消費収入超過額は更に累積し、5,277,345千円となった。

貸借対照表 貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものである。

貸借対照表(2014年3月31日現在)(単位:円)

●資産の部合計

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	17,446,119,403	17,003,823,075	442,296,328
有形固定資産	10,251,387,138	10,541,659,216	△290,272,078
土地	1,695,988,150	1,695,988,150	0
建物	5,094,655,280	5,330,581,892	△235,926,612
構築物	467,492,011	492,310,094	△24,818,083
教育研究用機器備品	398,740,886	494,616,167	△95,875,281
その他の機器備品	18,766,884	24,785,727	△6,018,843
図書	2,573,832,851	2,500,451,804	73,381,047
車輛	1,911,076	2,925,382	△1,014,306
その他の固定資産	7,194,732,265	6,462,163,859	732,568,406
電話加入権	2,550,798	2,550,798	0
有価証券	59,939,364	39,989,958	19,949,406
退職給与引当特定預金	1,213,000,000	1,113,000,000	100,000,000
校舎建築引当特定預金	850,139,567	850,139,567	0
減価償却引当特定預金	3,795,603,289	3,274,174,289	521,429,000
金銭貸付引当特定預金	1,800,000	1,900,000	△100,000
長満期貸付引当特定預金	4,980,000	5,280,000	△300,000
波平博士課程奨学金引当特定預金	1,800,000	1,900,000	△100,000
山城大学院奨学金引当特定預金	600,000	700,000	△100,000
学生サポート奨学金引当特定預金	10,019,118	10,496,118	△477,000
宮城勇体育奨学金引当特定預金	2,700,000	2,850,000	△150,000
校友会教育備品費引当特定預金	11,250,900	10,750,900	500,000
後援会奨学金引当特定預金	16,535,000	16,535,000	0
校友会奨学金引当特定預金	1,900,000	1,000,000	900,000
第3号基本金引当資産	1,221,831,379	1,130,814,379	91,017,000
預託金	82,850	82,850	0
流動資産	12,050,848,974	11,877,734,116	173,114,858
現金預金	11,858,611,382	11,691,061,945	167,549,437
未収入金	188,677,155	178,091,483	10,585,672
貯蔵金	1,705,787	2,231,884	△526,097
前払金	1,847,200	6,348,804	△4,501,604
仮払金	7,450	0	7,450
資産の部合計	29,496,968,377	28,881,557,191	615,411,186

●負債の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,533,868,822	1,632,477,514	△98,608,692
長期借入金	250,000,000	300,000,000	△50,000,000
退職給与引当金	1,283,868,822	1,332,477,514	△48,608,692
流動負債	2,524,979,764	2,546,069,528	△21,089,764
短期借入金	50,000,000	100,000,000	△50,000,000
未払金	341,520,185	367,033,150	△25,512,965
前受金	1,931,983,746	1,914,855,700	17,128,046
預り金	201,475,833	164,180,678	37,295,155
負債の部合計	4,058,848,586	4,178,547,042	△119,698,456

●基本金の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	17,770,803,407	17,530,561,072	240,242,335
第2号基本金	850,139,567	850,139,567	0
第3号基本金	1,221,831,379	1,130,814,379	91,017,000
第4号基本金	318,000,000	318,000,000	0
基本金の部合計	20,160,774,353	19,829,515,018	331,259,335

●消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	5,277,345,438	4,873,495,131	403,850,307
消費収支差額の部合計	5,277,345,438	4,873,495,131	403,850,307

注記

- 重要な会計方針
 - 引当金の計上基準
徴収不能引当金
未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込み額を計上している。
 - 退職給与引当金
退職金の支給に備えるため、期末要支給額1,286,165,980円の100%を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。
 - その他の重要な会計方針
有価証券の評価基準及び評価方法
移動平均法に基づく原価法である。
 - 棚卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法に基づく原価法である。
- 減価償却額の累計額の合計額 7,904,853,432円
- 徴収不能引当金の合計額 0円
- 担保に供されている資産の種類及び額
担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。
土地(学校用地)8,265㎡ 43,174,972円
- 翌会計年度以降後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 326,366,354円
- その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項
 - 有価証券の時価情報

	勘定科目	当年度(2014年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの	有価証券	(39,989,958)	64,556,900	24,566,942
	第3号基本金引当資産	(99,980,000)	102,287,300	2,307,300
(うちの満期保有目的の債券)	有価証券	(0)	(0)	(0)
	第3号基本金引当資産	(99,980,000)	(102,287,300)	(2,307,300)
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの	有価証券	19,949,406	19,921,500	△27,906
	第3号基本金引当資産	0	0	0
(うち満期保有目的の債券)	有価証券	(0)	(0)	(0)
	第3号基本金引当資産	(0)	(0)	(0)
合計	有価証券	59,939,364	84,478,400	24,539,036
	第3号基本金引当資産	99,980,000	102,287,300	2,307,300
(うち満期保有目的の債券)	有価証券	(0)	(0)	(0)
	第3号基本金引当資産	(99,980,000)	(102,287,300)	(2,307,300)

- 偶発債務
該当なし
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リースは、次のとおりである。
①2009年4月1日以降に開始したリース取引
該当なし
②2009年3月31日以前に開始したリース取引
該当なし
 - 関連当事者との取引
該当なし
- ※この貸借対照表は、学校法人会計基準(1971年4月1日文部省令第16号)に従い作成しており、様式は補助金交付の観点からの表示区分になっている。

●消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	29,496,968,377	28,881,557,191	615,411,186

2015年度 入学試験関連情報

2015年度 入試日程

	一般入学試験		大学入試センター試験利用入学試験		特別・編入
	前期日程	後期日程	前期日程	後期日程	後期日程
出願期間	2015年1月5日(月) ～1月9日(金)	2015年2月17日(火) ～2月20日(金)	2015年1月14日(水) ～1月21日(水)	2015年2月17日(火) ～2月20日(金)	2014年12月24日(水) ～2015年1月5日(月)
入学試験日	2015年2月3日(火)	2015年 3月3日(火) 全学部・全学科	大学入試センター試験実施日 2015年 1月17日(土)・18日(日) ※個別試験は課さない		2015年 2月4日(水) 全学部・全学科
	●法律学科 ●経済学科 ●企業システム学科 ●英米言語文化学科 ●社会文化学科 ●人間福祉学科 (心理カウンセリング専攻) ●専門高校・総合学科卒業生選抜試験 (経済学部／産業情報学部)				
	2015年2月4日(水)				
	●地域行政学科 ●地域環境政策学科 ●産業情報学科 ●日本文化学科 ●人間福祉学科(社会福祉専攻)				
合格発表	2015年2月17日(火)	2015年3月10日(火)	2015年2月17日(火)	2015年3月10日(火)	2015年2月17日(火)

2015年度AO入学試験実施

2015年度AO入試の出願期間は8月1日～7日で、志願者は908名でした。第2次審査(面談審査)は、第1次審査(書類審査)の合格者698名を対象に9月5日～8日に実施し、10月2日に最終合格者407名を発表しました。

最も倍率が高かったのは、人間福祉学科心理カウンセリング専攻の4.14倍、次いで企業システム学科の2.89倍、地域行政学科の2.83倍の順となりました。全体の倍率は2.23倍でした。

学 科	募集人数	志願者数	第1次審査 合格者数	最終審査 合格者数	倍率	前年度 倍 率
法 律	33	50	50	37	1.35	2.02
地 域 行 政	33	116	73	41	2.83	2.83
経 済	34	80	60	39	2.05	2.13
地域環境政策	34	67	53	41	1.63	1.95
企業システム	34	127	86	44	2.89	2.56
産 業 情 報	34	56	52	43	1.30	2.08
日 本 文 化	33	81	81	40	2.03	2.12
英米言語文化	36	114	69	42	2.71	2.8
社 会 文 化	24	62	42	28	2.21	2.39
人 福：福 祉	24	64	52	30	2.13	2.13
人 福：心 理	22	91	80	22	4.14	3.56
合 計	341	908	698	407	2.23	2.37

オープンキャンパス実施

2014年度のオープンキャンパス(7月6・20日、10月19日)は、3日間で延べ2,266名の方々にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

アンケートでも好評だった在学生によるキャンパスツアーや相談ブースをはじめ、沖国大トートバックやクッキーセットの配布、学食や学内カフェの出店等、昨年にも増して盛りだくさんの内容となりました。また、多くの高校生にご参加いただけるよう沖縄本島内の各地区にシャトルバスを運行しました。

学科紹介や体験講座は、午前午後1コマずつ設定し、興味のある学科の講座を受講できるようにしました。学科によっては、在学生や教員が学科紹介ブースを設け、より詳しく学科のことを伝える取り組みも行いました。

学生生活を感じていただくために、部活動の見学や手話サークル、写真部、茶道部、バルーンアート、カタヤビラによる企画展示、また、お昼のアトラクションでは、「琉球風車」や「鼓舞楽団浦風」のエイサー演舞、「OSSF」のダンス等が披露されました。

本学をより志望していただけるオープンキャンパスを目指し、これからもアンケート等で寄せられた多くの声に応えていきたいと思ひます。

ご来場下さった皆様、ありがとうございました。

☆大学院9月入学試験実施

9月21日、大学院の9月入学試験が実施されました。選考の結果、地域文化研究科3名、地域産業研究科2名、法学研究科2名の計7名が合格となりました。

2015年2月8日には、2月入学試験が実施されます。現在、入試要項及び大学院案内を入試センターにて配布しています。詳細については、入試センター

▶ TEL:098-893-8945 E-mail:entchr@oku.ac.jp へお問合せ下さい。

大学院入学試験(2月試験)

出願期間:2015年1月13日(火)～1月20日(火)

入学試験日:2015年2月8日(日)

合格発表日:2015年2月20日(金) 午前11時